



巻頭特集

さあ！  
今年もみんなであつなごう！  
赤いタスキを  
被災地の未来のために。

東日本大震災の直後から、「走ることで被災地の力になりたい」と「チャリティ駅伝」を主催している寒河江西村山ETジュニア。今年3月21日、被災した方たちへの思いを込めて赤いタスキをつなぎます。

寒河江西村山ETジュニア主催  
東日本大震災復興支援  
第6回チャリティ駅伝  
直前インタビュー



3・11を忘れない  
復興を支援する  
「チャリティ駅伝」

いま自分たちができる  
「走ることで」  
被災した人たちの力に

〈Moriver 編集室〉 東日本大震災から、まもなく3年を迎えます。被災地の復興を支援しようと、震災直後より定期的に「チャリティ駅伝」を開催している寒河江西村山ET（駅伝チーム）ジュニアの監督・金子茂さんにお話を伺いました。



寒河江西村山ETジュニア 監督 金子茂さん

「震災直後から復興支援の「チャリティ駅伝」をはじめたきっかけは？」  
金子 震災が起きて「自分たちに何ができるか？」と考えた時、やはり「走ること」だ。それで震災後すぐ4月の末に「チャリティ駅伝」を開きました。それから年2回ずつ、去年からは「春分の日」に開催して、今年で6回目になります。

「参加してくれた方の感想などは？」  
金子 何かしたくても、被災地にボランティアには行けない。走ることで支援できて自分も元気になれるので、参加して良かった。という声をたくさん聞いています。  
去年は、20チーム出場して154人が走りました。ほかにも応援や募金だけの人もいて、300人くらい会場に来てくれたでしょうか。  
地域の人も16店の協賛店が菓子を提供してくれたり、終わった後にお母さんたちが豚汁をつくって振る舞ってくれたり、いろんな人たちの善意が支えてくれて…。こうした機会は減多にならないので、子どもたちも楽しそうに参加していますね。



「まず、寒河江西村山ETジュニアについてご紹介ください。」  
金子 毎年4月に県縦断駅伝が行われますが、その寒河江西村山ETジュニア育成のため10年前に発足しました。いま小1から中3まで、120名が活動しています。  
陸上の好きな子どもを育てるのが一番の目的ですが、月に二度、川遊びなどで自然とふれあう自然塾を開いたり、タグラグビーをしたり、走るだけでなく、いろいろな体験を通して幅広い人間に育てたいと考えているんです。

「どのような駅伝なのですか？」  
金子 「3・11を忘れない！」がテーマで、小学生から社会人まで誰でも参加できます。河北中央公園内の周回コース800メートル、または体力に応じて半周の400メートルを1チーム2名以上で、2時間のタスキリレーを行って、2時間が経過したら、各チームごと全員で手をつないでゴールするんです。  
その参加費が一人500円以上、学生は3000円で、これを義援金として、第5回までの総額で約50万円を被災地に送ることができました。



月に一度、川でカジカやザリガニを捕まえたり自然とふれあう自然塾も開いて「幅広い人間に育てたい」と金子監督。

